

2019年度第5回価格審査会の開催について

2019年度第5回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、当財団の価格情報誌の発行前にその掲載価格の妥当性等について、外部の有識者によって審査を行うものです。

開催日時	2019年8月15日(木) 10:00 ~ 11:30	
場 所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	桜井 力	一般財団法人日本建設情報総合センター コリンズ・テクリスセンター長
	関口 司	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 次長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：川野辺 豊、課長：康広 誠己
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2019年度第4回価格審査会議事録(案) 確認

2019年度第5回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1.	「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の価格動向
・	価格が上昇した資材は、セメント(バラ)(甲府、岡山、佐賀)、レディーミクストコンクリート(八戸、三戸、宮古、鶴岡A・B、酒田、さいたま、川越、熊谷、所沢、加須、銚子、木更津、東京17、練馬・板橋、足立・葛飾、八王子、立川、武蔵野、府中、調布、横浜、川崎A、小田原、南足柄、箱根、甲府、北杜、甲州、長野A、飯山、栄村A、栄村B、津和野、下関C、朝倉A、八代、玉名)、再生砕石・再生砂(八戸、六ヶ所村、福島)、仮設・土木用木材(東北、九州の各都市)、燃料油【軽油ローリー渡し】(中国の各都市)、非鉄スクラップ【鉛】(東京、大阪、福岡)などであることを説明。
・	価格が下落した資材は、異形棒鋼(北海道、関東を除く各都市)、H形鋼(北海道を除く各都市)、伸銅品(全都市)、道路用砕石・割ぐり石・砂(古殿)、コンクリート型枠用合板(全都市)、電線(全都市)、鉄スクラップ【鉄】(中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄の各都市)、非鉄スクラップ【銅】(札幌、東京、新潟、広島、高松、福岡、那覇)などであることを説明。
2.	注目資材
・	レディーミクストコンクリート【東京】
3.	比較資料
・	企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	普通合板で、「原材料（ラワン）調達コストの値下がり」とあるが、原産国はどこか	原産国としてマレーシア、インドネシアなどの東南アジア諸国がある。中国の景気減速による需要減少に伴って、日本向け取引が安値となっている。
審議 2	生コンとセメントの価格に連動性はあるのか。	無いとは言えないが、連動性はあまり強くない。生コン価格は原材料より協組による共販事業の影響が大きいと言われている。
審議 3	新潟地区の生コン価格が安い、今後値上がりするの。	協組が値上げを表明しているが、員外社の出荷量が協組を上回っているため、現状では何とも言えない。
審議 4	生コン協組が表明した値上げが、市場に浸透したと判断する基準はあるのか。	調査地区の大口取引が対象で、値上げ価格が多数を占めたかどうか（最頻値）で判断している。
審議 5	仮設・土木用木材で、「原木不足に伴う値上げ」とあるが、この原木は国産か。	国産である。国産の小径木は、バイオマス発電の燃料需要と競合しており、供給不足になりやすい。
審議 6	新潟地区の生コンは、一時期より 4,500 円下落し 7,500 円となっているが、協組は 12,000 円に戻したいという説明があった。需給バランスを踏まえて今後どうなるのか。	新潟地区の生コンは、2017 年 10 月まで 12,000 円を維持していたが、その後、段階的に下落した。協組は 12,000 円に戻したい意向にあるが、員外社との競争もあり少し時間がかかると思われる。ただし、7,500 円よりもさらに安い値下げ販売は払しょくされつつある。
審議 7	一般建築用木材で、「原産国の需給緩和や円高の影響」とあるが、2～3カ月程度で為替の影響が表れたということか。	為替のほか原産国の需給状況など他の要因の影響も受けている。為替の影響が価格にどれくらいの期間で現れたかについては一概には言えない。
審議 8	東京地区の生コンは、「再開発関連で需要増が見込まれる」とあり、異形棒鋼は「夏場以降も早期の需要回復は期待薄」とある。見方が異なっている理由は。	生コンは、他地区から持ち込むことが難しいなどの理由から、当該地区の需要が市況に影響を与える。一方、異形棒鋼は、もう少し広域の需要が市況に影響を与える。捉えるエリアの大きさの違いで少し異なる表現となっている。
審議結果	「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の価格動向に問題はなかった。	

以上